

地理歴史科

公民科

現代社会の諸課題の解決を視野に入れて考察(各科目について主として「空間」・「時間」及び「現代社会の構造等」に着目)

新
必
履
修
科
目

「地理総合(仮称)」

持続可能な社会づくりを目指し、環境条件と人間の営みとの関わりに着目して現代の地理的な諸課題を考察する

「歴史総合(仮称)」

歴史の推移や変化を踏まえ、課題の解決を視野に入れて、世界とそこにおける日本について、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を考察する

「公共(仮称)」

現代社会の諸課題の解決に向けて、自立するとともに他者と協働して、公共的な空間を作る主体として選択・判断の基準を身に付け、考察する

新
選
択
科
目

「地理探究(仮称)」

世界の諸事象を系統的に、諸地域を地誌的に考察し、現代日本に求められる国土像の在り方について探究する

「日本史探究(仮称)」

我が国の歴史の展開について、世界の歴史や歴史を構成する様々な要素に着目して、総合的に広く深く探究する

「世界史探究(仮称)」

世界の歴史の大きな枠組みと展開について、地理的条件や日本の歴史と関連付けて、広く深く探究する

「倫理(仮称)」

他者と共に生きる主体を育むために、現代に生きる人間の倫理的課題について探究し、自立して思索する

「政治・経済(仮称)」

国家及び社会の形成に、より積極的な役割を果たす主体を育むために、現実社会の諸課題を広く深く探究する

必修科目で育んだ理解や技能を用いて、より専門的な視野から広く深く探究

※ 地理歴史科については、新必修科目の名称としては、両者を習得することによって当該教科の高等学校における目標を達成するために必要とされる資質・能力を育む科目として両科目に「総合」を付すとともに、生徒の興味・関心や進路等に応じて「総合科目」を基盤に、より専門的な視野から考察を深め、探究を行う科目について「探究」を付すこととしてはどうか。

※ 公民科については、自立した主体として他者と協働して社会に参画し、公共的な空間を作る主体を育むことを目指す科目の内容を端的かつ適切に示すことが可能なものとして「公共(仮称)」とするとともに、選択科目については地理歴史科と同様に探究を行う科目であるが、学習対象である「倫理」については「探究」がその本質的な内容の一部であることから、「倫理探究」といった科目名はなじまず、また、「政治・経済」のみに「探究」を付すことは、同一教科に置かれる同一の性格を持つ科目の名称について混乱させるおそれもあることから、「倫理(仮称)」、「政治・経済(仮称)」とすることとしてはどうか。

科目の特徴

○持続可能な社会づくりを目指し、環境条件と人間の営みとの関わりに着目して現代の地理的な諸課題を考察する科目

○グローバルな視座から国際理解や国際協力の在り方を、地域的な視座から防災などの諸課題への対応を考察する科目

○地図や地理情報システム(GIS)などを用いることで、汎用的で実践的な地理的技能を習得する科目

「グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者」を育成するために

現行地理A科目

地理A

(1)現代世界の特色と諸課題の地理的考察

- ア 地球儀や地図からとらえる現代世界
- イ 世界の生活・文化の多様性
- ウ 地球的課題の地理的考察

(2)生活圏の諸課題の地理的考察

- ア 日常生活と結び付いた地図
- イ 自然環境と防災
- ウ 生活圏の地理的な諸課題と地域調査

資質・能力

「社会的事象の地理的な見方・考え方」

○地球規模の自然システムや社会・経済システムに関する理解，地理に関する情報を効果的に調べまめる技能 など

○地理に関わる諸事象等の意味や意義，特色や相互の関連について，地域等の枠組みの中で概念等を活用して多面的・多角的

持続可能な社会づくり に求められる地理科目

を働かせて右の資質能力を育む

に考察したり，地域にみられる課題を把握し，その解決に向けて構想したりする力 など

○持続可能な社会づくりに向けて，地球的，地域的課題を意欲的に追究しようとする態度 など

新必修科目

「地理総合」（仮称）

(1) 地図と地理情報システムの活用

GIS

⇒以降の地理学習等の基盤となるよう，地理を学ぶ意義等を確認するとともに，地図や地理情報システム(GIS)などに関わる汎用的な地理的技能を身に付ける。

(2) 国際理解と国際協力

グローバル

ア 生活・文化の多様性と国際理解

⇒自然と社会・経済システムの調和を図った，世界の多様性のある生活・文化について理解する。

イ 地球的な諸課題と国際協力

⇒地球規模の諸課題とその解決に向けた国際協力の在り方について考察する。

(3) 防災と持続可能な社会の構築

ESD

ア 自然環境と災害対応

防災

⇒日本国内や地域の自然環境と自然災害との関わりや，そこでの防災対策について考察する。

イ 生活圏の調査と持続可能な社会づくり

⇒生活圏の課題を，観察や調査・見学等を取り入れた授業を通じて捉え，持続可能な社会づくりのための改善，解決策を探究する。

項目構成（案）

重視する思考力, 判断力, 表現力等

問い と授業展開のイメージ

「地理総合」（仮称）

(1) 地図と地理情報システムの活用

(2) 国際理解と国際協力

ア生活・文化の多様性と国際理解

イ地球的な諸課題と国際協力

(3) 防災と持続可能な社会の構築

ア自然環境と災害対応

イ生活圏の調査と持続可能な社会づくり

○地図上に表された事象と実際のできごとを関連付けて考察する力

○考察したことを、目的に応じて地図等にまとめ、効果的に説明する力

○自然環境等に対応した世界の多様な生活・文化の意味や意義を理解し、自他の文化を尊重しつつ考察する力

○考察したことを、資料を踏まえて説明する力

○地球規模で見られる諸課題（環境、資源・エネルギー、人口、食料、住居・都市、民族・領土等）について多面的・多角的に考察する力

○考察したことを、根拠を明確にして議論する力

○国内各地の自然環境とそこで現れる災害の傾向性を関連付けて課題を把握し、多面的・多角的に考察する力

○考察したことを、資料にまとめて説明する力

○生活圏に見られる課題について、その背景や要因等の分析に基づき、様々な解決策を吟味し、構想する力

○構想したことを、実現可能性を指標に議論する力

「社会的事象の地理的な見方・考え方」を働かせた授業設計

問いを重視した授業展開

⑦ なぜ出生率と、人口増加率は一致しないのだろう

出生率の高い地域が必ずしも人口増加率が高いわけではないことを、GISを用いて階級区分図の重ね合わせを行い、その地域的な要因を考察する。〔他に、統計資料の分析、主題図の作成などの主題を設定〕

① どうしてアンデスでは、湖上で生活する人々がいるのだろう

アンデス高地の地形や気候等の自然環境の特徴から、湖上で生活する理由を見出し、生活の多様性とその必然性について考察させ、異文化理解を図る。〔他に、衣・食や宗教などの主題〕

② なぜウガンダでは、生産性で劣る陸稲が生産されているのだろう

食料難に悩むウガンダに対して、どのような手段で食料増産を促すための支援が可能なのか。支援で直面した課題とその要因を探り、国際協力の在り方について考察する。〔他に、地球温暖化対策などの主題〕

③ ハザードマップを読んで、私たちの町の防災について考えよう

複数のハザードマップから地域の自然環境の特徴を読み取り、その情報を比較、関連付けて、各地域で想定される災害を考え、地域ならではの対応策を考察する。〔他に、災害復旧・復興、都市計画などの主題〕

④ フードデザート解消のため、どのようなまちづくりを目指すべきか

中心業務地区の衰退等を背景に、今後どのようなまちづくりを行うべきか、地域調査により収集した諸資料を分析し、分析結果を踏まえた生活圏の在るべき姿を構想する。〔他に、環境対策などの主題〕

<補足；「学習の系統性、段階性」>

- ・(1)の学習によって培った地理的な技能を、後の(2)、(3)の学習や他教科・科目等の学習において実践的に活用する。
- ・(2)と(3)のそれぞれ「ア」で把握、考察したことを基に、「イ」で議論、構想する。
- ・(2)で学んだ諸課題への対応策を、(3)の生活圏の諸課題解決の構想に生かす。(Think Globally, Act Locally)

「地理総合（仮称）」は、主題を基に課題解決的な学習により、社会で生きて働く地理的実践力の育成の場として、「地理探究（仮称）」は、地理総合で習得した地理的な技能、「見方・考え方」を基に、世界の諸事象の規則性や傾向性などを系統的に、世界の諸地域の構造や変容などを地誌的に考察した上で、現代日本に求められる国土像の在り方について構想することにより、高等教育での学びにも繋がる本格的な地理的探究の場として構成する。

現行地理B科目

資質・能力

- (1) 地図と地理情報システムの活用
- (2) 国際理解と国際協力
- (3) 防災と持続可能な社会の構築

新必修科目
「地理総合（仮称）」

地理B

(1) 様々な地図と地理的技能

- ア 地理情報と地図
- イ 地図の活用と地域調査

移行

(2) 現代世界の系統地理的考察

- ア 自然環境
- イ 資源、産業
- ウ 人口、都市・村落
- エ 生活文化、民族・宗教

(3) 現代世界の地誌的考察

- ア 現代世界の地域区分
- イ 現代世界の諸地域
- ウ 現代世界と日本

拡充

「社会的事象の地理的な見方・考

○世界の空間的な諸事象の規則性、傾向性や、世界の諸地域の構造や変容についての理解、地理に関する情報を効果的に調べまとめる技能 など

「地理総合（仮称）」で身に付けた学習の成果を活用し探究を深める科目

え方を働かせて右の資質・能力を育む

○世界の諸事象を系統地理的に考察する力や、世界の諸地域を地誌的に考察する力 など

○世界や日本の望まれる国土像や地域像の構築のため、進んで参加し貢献しようとする態度 など

地理探究（仮称）

(1) 現代世界の系統地理的考察

事象 からのアプローチ

ア 自然環境 イ 資源、産業 ウ 人口、都市・村落
エ 生活文化、民族・宗教 オ 観光、交通・通信 等

⇒系統地理的に事象の規則性や傾向性などを考察する。
⇒それぞれに環境問題、食料問題などの関連諸課題を追究する。

(2) 現代世界の地誌的考察

地域 からのアプローチ

ア 現代世界の地域区分

⇒地域概念、地域区分の意義を考察し、実際に地域を区分する。

イ 現代世界の諸地域

⇒地誌的に地域の構造や変容などを考察する。
⇒地域ならではの諸課題と地球的課題の関連性を追究する。

(3) 現代日本に求められる国土像

総合的なアプローチ

⇒(1)(2)で学んだ世界の諸課題に対する系統地理的・地誌的な考察を踏まえ、我が国が抱える地理的な諸課題を探究する活動を通して、その解決の方向性や将来の国土像の在り方などについて展望する。

諸資料に基づき、歴史的背景を踏まえて展開

特 徴 の 目 的

○世界とそこにおける日本を広く相互的な視野から捉えて、近現代の歴史を理解する科目

○歴史の推移や変化を踏まえ、課題の解決を視野に入れて、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を考察する科目

○歴史の大きな転換に着目し、単元の基軸となる問いを設け、資料を活用しながら、歴史の学び方（「類似・差異」「因果関係」に着目する等）を習得する科目

「グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者」を育成するために

現代的な諸課題につながる歴史的な状況(例)
 <a 自由と制限> <b 富裕と貧困> <c 対立と協調>
 <d 統合と分化> <e 開発と保全> など

学習内容
の
焦点化

●歴史の扉～歴史をなぜ学ぶか、どう学ぶか～(例:歴史と現在～現代的な諸課題)

・18世紀後半～現在

・産業社会と国民国家を形成する動きがみられ、社会が大きく変化しはじめた。

●近代化と私たち～社会構造の変化を考察するために

【単元例】

・結び付く日本と世界
 ○産業社会の到来、政治の変革
 ○日本の改革、アジアやアフリカの変容など
 (まとめ)歴史と現在①～近代社会

【考察を深める問いの事例】(例)a～bなどを中心として

・日本・世界はどのように結び付いたか
 ・工業化と政治変革は何をもたらしたか
 ・日本、アジアやアフリカはどのように変化したか
 (まとめ/基軸となる問い)社会の近代化は何をもたらしたか など

・19世紀後半～現在

・大衆の参加の拡大が社会全体の在り方を規定するようになりはじめた。

●大衆化と私たち～個人・集団と社会との関わりを考察するために

【単元例】

○大衆社会の形成、社会運動の高まり
 ○国際紛争と国際協調
 ○大戦後の世界・日本など
 (まとめ)歴史と現在②～大衆社会

【考察を深める問いの事例】(例)a～cなどを中心として

・なぜ政治参加と文化活動が拡大したか
 ・なぜ戦争がすべての人々を巻き込むものになったか
 ・大戦を経て、どのように社会は変わったか
 (まとめ/基軸となる問い)社会の大衆化は何をもたらしたか など

・20世紀後半～現在

・人・モノ・カネ・情報等が国境を越えて一層流動するようになりはじめた。

●グローバル化と私たち～持続可能な社会を展望するために

【単元例】

○多極化と地域統合
 ○地域紛争と国際秩序
 ○世界とそこの中日本など
 (まとめ)歴史と現在③～グローバル社会

【考察を深める問いの事例】(例)a～eのいくつかから

・冷戦構造の変化は何をもたらしたか
 ・冷戦終結後も、なぜ地域紛争は続くのか
 ・日本は国際社会にどのように関わってきたか
 (まとめ/基軸となる問い)国際社会のグローバル化は新たに何をもたらしたか、あなたはどんな日本/世界を求めるか など

取り上げることが考えられる題材

…アジア域内貿易、産業/市民革命、近代科学、立憲政治、議会制民主主義(代議制民主主義)、資本/社会主義、明治維新、国民国家、国民文化、政党政治、ジャポニズム、消費社会、マスコミ、教育、移民、帝国主義、総力戦、植民地、大正デモクラシー、国際協調、世界/昭和恐慌、全体主義、冷戦、地域紛争、地域統合、ナショナリズム、難民、高度経済成長、多国籍企業、市場経済、情報通信技術(ICT)…など

歴史の学び方(例)

○「社会的事象の歴史的な見方・考え方」を用いて学ぶ方法(例)
 ・社会的事象を、時期、推移などに着目して捉え、

・比較して類似や差異などを明確にしたり
 ・事象同士を因果関係などで関連付けたり

⇒事象の意味や意義、特色や相互の関連を多面的・多角的に考察する など

*「近代化」「大衆化」「グローバル化」といった近現代の歴史の大きな転換に着目する際には、欧米等特定の地域の動きやそれらの動きが歴史に与える影響のみに着目することがないよう留意する必要がある。

* 考察を深める問いについては、取り上げる時期を広げて設定したり、多様な地域を視野に入れて設定することが考えられる。

* 各単元の導入において、「現代的な諸課題につながる歴史的な状況」を踏まえた単元の全体構想を示すことが考えられる。

* 「近代化と私たち」に例示した「結び付く日本と世界」では、近代化の前の各地域の状況について、例えばアジアを舞台とする日本と世界の商業や交易に触れ導入とすることが考えられる。

* 上記(まとめ)は、中学校までの既習事項を主に活用しながら、歴史の大きな転換が現在とどのように関わっているか考察する単元として構成することが考えられる。

現行歴史系A科目

世界史A

- 1 世界史へのいざない
- 2 世界の一体化と日本
- 3 地球社会と日本

関連付け

日本史A

- 1 私たちの時代と歴史
- 2 近代の日本と世界
- 3 現代の日本と世界

資質・能力

「社会的事象の歴史的な見方・考え方」を働かせて右の資質・能力を育む

○世界とそこにおける日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史の理解、諸資料から情報を効果的に収集する・読み取る・まとめる技能

○諸事象等の意味や意義、特

世界とそこにおける日本を広く相互的な視野から捉えて、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を考察する科目

色や相互の関連について、概念等を活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に関わる諸課題を把握し、その解決に向けて構想したりする力

○主体的に調べ分かつようとして課題を意欲的に追究しようしたり、よりよい社会の実現を視野に世界とそこにおける日本の在り方について歴史的な観点から意欲的に追究しようしたりする態度 など

新必修修科目「歴史総合（仮称）」

○ 歴史の扉

中学校社会科の学習を振り返り、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を題材に、歴史を学ぶ意義や歴史の学び方について考察する など

○ 近代化と私たち

近代化の前の各地域の状況（例えばアジアを舞台とする日本と世界の商業や交易など）について触れ導入とし、産業社会と国民国家の形成を背景として人々の生活や社会の在り方が変化したことを扱い、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史の諸事象について考察する など

○ 大衆化と私たち

大衆の社会参加の拡大を背景として人々の生活や社会、国際関係の在り方が変化したことを扱い、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史の諸事象について考察する など

○ グローバル化と私たち

グローバル化する国際社会を背景として人々の生活や社会、国際関係の在り方が変化したことを扱い、現代社会を理解し、持続可能な社会の在り方を展望する など

現代的な諸課題につながる歴史的な状況（例）

「自由と制限」
「富裕と貧困」

「対立と協調」

「統合と分化」
「開発と保全」
など

取り上げることが考えられる題材

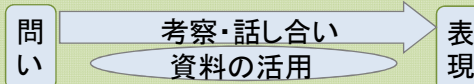
…アジア域内貿易、産業/市民革命、近代科学、立憲政治、議会制民主主義（代議制民主主義）、資本/社会主義、明治維新、政党政治、国民国家、国民文化、ジャポニズム、消費社会、マスコミ、教育、移民、帝国主義、総力戦、植民地、大正デモクラシー、国際協調、世界/昭和恐慌、全体主義、冷戦、地域紛争、地域統合、ナショナリズム、難民、高度経済成長、多国籍企業、市場経済、情報通信技術（ICT）…など

【参考】

- ・現行中学校社会科の歴史的分野の学習では、我が国の歴史の大きな流れの理解をねらいとしている。（各時代の特色を捉える学習他）
- ・歴史の大きな転換に着目し、単元の基軸となる問いを設け、資料を活用しながら、歴史の学び方を習得する。
- ・考察を深める問いについては、取り上げる時期を広げて設定したり、多様な地域を視野に入れて設定したりすることが考えられる。

新必修科目「歴史総合(仮称)」

- 世界とそこにおける日本を広く相互的な視野から捉えて、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を考察する科目
- ◎歴史の大きな転換に着目し、単元の基軸となる本質的で大きな問いを設け、諸資料を適切に活用しながら、比較や因果関係を追究するなど「社会的事象の歴史的な見方・考え方」を用いて考察する歴史の学び方(「類似・差異」「因果関係」に着目する等)を身に付ける。



現行科目「世界史B」

- (1) 扉
- (2) 形成
- (3) 交流と再編
- (4) 結合と変容
- (5) 地球世界の到来

◎新必修科目で
習得した歴史の学び
方を活用し、歴史に
関わる諸事象の意
味や意義等を広く深
く考察し探究する

現行科目「日本史B」

- (1) 原始・古代
- (2) 中世
- (3) 近世
- (4) 近代
- (5) 両大戦期
- (6) 現代

新選択科目 「世界史探究(仮称)」

- 世界の歴史の大きな枠組と展開について、地理的条件や日本の歴史と関連付けて広く深く探究する。
- 前近代では、
 - ・「歴史総合(仮称)」で育んだ歴史の学び方を生かして、諸資料を効果的に活用して歴史を考察し表現する。
 - ・近現代につながる諸地域世界の多様性や複合性を扱い、時間軸(タテ)と空間軸(ヨコ)の変化に着目して理解する。
- 近現代では、
 - ・「歴史総合(仮称)」で獲得した概念等、前近代の学習で成長させた歴史を考察し表現する力を活用し、近現代の諸地域世界の関係性や相互依存関係を捉え、主に空間軸(ヨコ)の変化に着目して、現代につながる諸課題を多面的・多角的に考察する。
 - ・「歴史総合(仮称)」で獲得した概念等に加え、さらに考察を深めるために必要な歴史に関する概念等を習得する。

新選択科目 「日本史探究(仮称)」

- 我が国の歴史の展開について、地理的条件や世界の歴史、歴史を構成する様々な要素に着目して、総合的に広く深く探究する。
- 前近代では、
 - ・「歴史総合(仮称)」で育んだ歴史の学び方を一層高めるため、多様な資料を効果的に活用して歴史を解釈、説明する力を段階的に成長させて歴史を考察し表現する。
 - ・継承や変化に着目し、近現代につながる各時代の展開の理解や、我が国の伝統や文化への理解を深める。
- 近現代では、
 - ・「歴史総合(仮称)」で獲得した概念等、前近代の学習で成長させた歴史を解釈、説明する力を活用し、地域と日本、世界の相互の関係を捉え、現代につながる諸課題を多面的・多角的に考察する。
 - ・「歴史総合(仮称)」で獲得した概念等に加え、さらに考察を深めるために必要な歴史に関する概念等を習得する。

※歴史用語については、研究者と教員との対話を通じ、「社会的事象の歴史的な見方・考え方」等も踏まえ、地理歴史科の科目のねらいを実現するために必要な概念等に関する知識を明確化するなどして整理することなどが求められる。

現行日本史B科目

- (1) 原始・古代の日本と東アジア
ア 歴史と資料
イ 日本文化の黎明と古代国家の形成
ウ 古代国家の推移と社会の変化
- (2) 中世の日本と東アジア
ア 歴史の解釈
イ 中世国家の形成
ウ 中世社会の展開
- (3) 近世の日本と世界
ア 歴史の説明
イ 近世国家の形成
ウ 産業経済の発展と幕藩体制の変容
- (4) 近代日本の形成と世界
ア 明治維新と立憲体制の成立
イ 国際関係の推移と立憲国家の展開
ウ 近代産業の発展と近代文化
- (5) 両世界大戦期の日本と世界
ア 政党政治の発展と大衆社会の形成
イ 第一次世界大戦と日本の経済・社会
ウ 第二次世界大戦と日本
- (6) 現代の日本と世界
ア 現代日本の政治と国際社会
イ 経済の発展と国民生活の変化
ウ 歴史の論述

「社会的事象の歴史的な見方・考え方」を働かせて右の資質・能力を育む

資質・能力

○我が国の歴史の展開について、地理的条件や世界の歴史、歴史を構成する諸要素・諸領域に着目した総合的な理解、多様な資料を効果的に収集する、読み取る、まとめる技能

「歴史総合（仮称）」で習得した歴史の学び方を活用して、歴史に関わる諸事象の意味や意義等を広く深く考察し探究する科目

○諸事象の意味や意義、特色や相互の関連について、各時代の展開に関わる概念等を活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し、その解決に向けて構想したりする力

○よりよい社会の実現を視野に、歴史の展開についての総合的な理解を踏まえ、地域や日本、世界の在り方を意欲的に探究しようとする態度など

新必修科目 「歴史総合（仮称）」

○世界とそこにおける日本を広く相互的な視野から捉えて、近現代の歴史を理解する科目 ○歴史の推移や変化を踏まえ、課題の解決を視野に入れて、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を考察する科目 ○歴史の大きな転換に着目し、単元の基軸となる問いを設け、資料を活用しながら、歴史の学び方（「類似・差異」「因果関係」に着目する等）を習得する科目

「日本史探究（仮称）」

「歴史総合（仮称）」を踏まえた前近代を学ぶ視座 ○近代以前の多様で複合的な社会
○近代以前の東アジア等との交流 ○大衆化以前の身分や階層社会 など

○歴史の展開と資料 -原始・古代の日本と東アジア-

考古資料や文献資料を踏まえて歴史が叙述されること等の理解をもとに、原始・古代の社会や文化の特色を国際環境と関連付けて考察し課題を追究する。

<探究例> 纏向（まきむく）遺跡の多様な地域の特色を持つ遺物の資料から王権の特徴を考察したり、東大寺盧舎那仏の建造技術、国際的な仏教文化、国家関係等から律令国家の特徴を考察したりする活動 など

○歴史の展開と解釈 -中世の日本と東アジア-

諸資料を活用して諸事象の意味や意義を解釈する活動等を通して、中世の分立する権力の在り方や、社会変動や文化の主体の多様化などについて、国際環境と関連付けて考察し課題を追究する。

<探究例> 倭寇の絵画資料から活動を読み取り外交や政権に与えた影響を考察したり、現代と過去の地図、絵画資料等を利用して寺社と産業、都市の発達との関係や現代への影響を考察したりする活動 など

○歴史の展開と説明 -近世の日本と世界-

歴史事象の多様な解釈を根拠や論理を踏まえて説明する活動等を通して、近現代の直接の前史としての近世社会について、その安定と動揺、変化への胎動などについて考察し課題を追究する。

<探究例> 綱吉政権や田沼政治などについて、グループで当時の幕府の法令などを読み解き、特徴を捉え、政策や法令の歴史的な評価を考察し、資料に基づいて根拠を説明したりする活動 など

「歴史総合（仮称）」で獲得した世界と日本の相互的な視野、前近代の学習で成長させた歴史を解釈し説明する力を活用

○歴史の展開と構造 -近代の地域・日本と世界-

必修科目で学んだ概念などを用い、地域と日本、世界の歴史の相互の関係を地域の資料等を活用して捉え、日本の近代社会の変化と多様な展開について考察し課題を追究する。

<探究例> 地域の養蚕業の盛衰の背景を調べ、近代化の過程における日本の貿易や世界の需要、国内の産業構造の変化などの関係を資料に基づいて考察し説明する活動 など

○歴史の展開と論述 -現代の日本と世界-

現代の社会や国民生活の特色について国際環境と関連付けて考察し、適切な主題を設け、根拠となる資料や事象など歴史的な背景を踏まえ、現代につながる諸課題について論述する。

<探究例> 高度成長期の公害、近代の鉱毒事件などの状況や対策を資料から捉え、地球環境への取り組みについて、それらの歴史を踏まえた現在の日本に期待される役割などについて論述する など

諸資料に基づき、地理的条件や世界の歴史と関連付けて展開

<参考>

- 前近代では、「歴史総合（仮称）」で育んだ歴史の学び方を一層高めるため、多様な資料を効果的に活用して歴史を解釈、説明する力を段階的に成長させて歴史を考察し表現する。継承や変化に着目して、近現代につながる各時代の展開や、我が国の伝統や文化への理解を深める。
- 近現代では、「歴史総合（仮称）」で獲得した知識や概念、前近代の学習で成長させた歴史を解釈、説明する力を活用し、地域と日本、世界の相互の関係を捉え、現代につながる諸課題を多面的・多角的に考察する。「歴史総合（仮称）」で獲得した概念等に加え、さらに考察を深めるために必要な歴史的な概念等を習得する。

現行世界史B科目

〔1〕世界史への扉

(2)諸地域世界の形成

- ア 西アジア世界・地中海世界
- イ 南アジア世界・東南アジア世界
- ウ 東アジア世界・内陸アジア世界
- エ 時間軸からみる諸地域世界

(3)諸地域世界の交流と再編

- ア イスラーム世界の形成と拡大
- イ ヨーロッパ世界の形成と展開
- ウ 内陸アジアの動向と諸地域世界
- エ 空間軸からみる諸地域世界

(4)諸地域世界の結合と変容

- ア アジア諸地域の繁栄と日本
- イ ヨーロッパの拡大と大西洋世界
- ウ 産業社会と国民国家の形成
- エ 世界市場の形成と日本
- オ 資料からよみとく歴史の世界

(5)地球世界の到来

- ア 帝国主義と社会の変容
- イ 二つの世界大戦と大衆社会の出現
- ウ 米ソ冷戦と第三世界
- エ グローバル化した世界と日本
- オ 資料活用して探究する地球世界の課題

資質・能力

○世界の歴史の大きな枠組みと展開について、地理的条件や日本の歴史と関連付けた理解、諸資料から世界の歴史に関する情報を効果的に収集する、読み取る、まとめる技能

○世界の歴史に 関わる諸事象等の意味や意義、特色や相互の関連

「歴史総合（仮称）」で習得した歴史の学び方を活用して、歴史に関わる諸事象の意味や意義等を広く深く考察し探究する科目

について、世界の歴史の大きな枠組みに関する概念等を活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し、その解決に向けて構想したりする力

○よりよい社会の実現を視野に入れて、世界や日本の在り方を意欲的に探究しようとする態度など

新必修科目「歴史総合（仮称）」

○世界とその中における日本を広く相互的な視野から捉えて、近現代の歴史を理解する科目 ○歴史の推移や変化を踏まえ、課題の解決を視野に入れて、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を考察する科目 ○歴史の大きな転換に着目し、単元の基軸となる問いを設け、資料を活用しながら、歴史の学び方（「類似・差異」「因果関係」に着目する等）を習得する科目

「世界史探究（仮称）」

「歴史総合（仮称）」を踏まえた前近代を学ぶ視座：○近代化以前
の多様で複合的な社会 ○大衆化以前の身分や階層社会 など

○諸地域世界の歴史的特質

諸地域世界の社会や生活、文化などの多様性を扱い、主に時間的なつながりに着目して、歴史に関わる諸事象を考察し課題を追究する

＜探究例＞◇仏像が誕生し日本に伝来した歴史を整理し地図上でわかりやすく表現したり、農民反乱や人の移動と、気候の変化を関連付けて説明したりする活動 など

○諸地域世界の接触と交流

接触と交流により複合性を強める諸地域世界の特質を扱い、主に空間的なつながりに着目して、歴史に関わる諸事象を考察し課題を追究する

＜探究例＞◇旅行家の記録を読み諸地域の様子を整理し交易活動などを地図を用いてまとめたり、各世紀の地図を作成し時代像を発表したりする活動 など

「歴史総合（仮称）」で獲得した世界と日本に関わる相互的な視野、前近代の学習で成長させた歴史を考察し表現する力を活用

○諸地域世界の結合と再編

結合と再編により関係性を深める諸地域世界の特質を扱い、主に空間的なつながりの拡大に着目して、歴史に関わる諸事象を考察し課題を追究する

＜探究例＞◇越境する人々を取り上げその推移や動向を調べ時代の変化をまとめたり、この時代のポスターや風刺画、映像の内容をよみとりそれらを批判的に吟味し意見交換したりする活動 など

○地球世界の到来

多元的な相互依存関係を深めつつ地球規模で一体化が進む現代世界の構造的特質を扱い、歴史的経緯を踏まえて、人々が協調し共存できる持続可能な社会の実現について多面的・多角的に考察し課題を展望する

＜探究例＞◇現代的な諸課題を歴史的に探究する主題を生徒が設定して、考察した内容や結果を報告し、現在の日本に期待される役割などについて論述する など

「社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせて右の資質・能力を育む」

諸資料に基づき、地理的条件や日本の歴史と関連付けて展開

＜参考＞

○前近代では、「歴史総合（仮称）」で育んだ歴史の学び方を生かして、諸資料を効果的に活用して歴史を考察し表現する。近現代につながる諸地域世界の文化の多様性や複合性を扱い、時間軸（タテ）と空間軸（ヨコ）の変化に着目して理解する。

○近現代では、「歴史総合（仮称）」で獲得した概念等、前近代の学習で成長させた歴史を考察し表現する力を活用し、近現代の諸地域世界の関係性や多元的な相互依存関係を捉え、主に空間軸（ヨコ）の変化に着目して、現代につながる諸課題を多面的・多角的に考察する。

新必修科目「公共（仮称）」

資質・能力

- 現代社会の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論の理解、及び諸資料から、倫理的、政治的、経済的、法的、様々な情報の発信・受信主体等となるために必要な情報を効果的に収集する・読み取る・まとめる技能
- 選択・判断するための手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、現代の社会的事象や現実社会の諸課題の解決に向けて、事実を基に協働的に考察し、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを、妥当性や効果、実現可能性などを指標として論拠を基に議論する力
- 現代社会に生きる人間としての自覚、我が国及び国際社会において国家及び社会の形成に積極的な役割を果たそうとする自覚 など

考えられる
学習活動の例

討論、ディベート、模擬選挙、模擬投票、模擬裁判、インターンシップの事前・事後の学習 など

関係する
専門家・機関

選挙管理委員会、消費者センター、弁護士、NPO など

(1)「公共」の扉

「グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者」を育成

⇒ 自立した主体とは、孤立して生きるのではなく、他者との協働により国家や社会など公共的な空間を作る主体であるということを学ぶとともに、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論、公共的な空間における基本的原理を理解し、(2)、(3)の学習の基盤を養う。

ア 公共的な空間を作る私たち

⇒ 今まで受け継がれてきた蓄積や先人の取組、知恵などを踏まえ、①「様々な立場や文化等を背景にして社会が成立していること」、②「自立した主体とは何か」を問い、自らを成長させることや、対話を通じてお互いを理解し高め合うこと」の両者によって公共的な空間を作り出していくことについて学ぶ。

イ 公共的な空間における人間としての在り方生き方

⇒ 社会に参画し、他者と協働する倫理的主体として、行為の善さを個人が判断するための手掛かりとなる、①「その行為の結果である、個人や社会全体の幸福を重視する考え方」と②「その行為の動機となる人間的責務としての公正などを重視する考え方」について理解させる。その際、行為の結果について、多面的・多角的に考えていくことが重要であることなどの留意点についても指導する。

ウ 公共的な空間における基本的原理

⇒ 個人と社会との関わりにおいて、個人の尊重を前提に、人間の尊厳と平等、協働の利益と社会の安定性の確保をともに図ることなどの公共的な空間における基本的原理について理解させる。その際、民主主義、法の支配、自由・権利と責任・義務、相互承認などを取り上げる。

倫理的主体となる私たち

(2)自立した主体として国家・社会の形成に参画し、他者と協働するために

⇒ 小・中学校社会科で習得した知識等を基盤に、(1)で身に付けた選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理等を活用して現実社会の諸課題を自ら見出し、考察、構想するとともに、協働の必要な理由、協働を可能とする条件、協働を阻害する要因などについて考察を深める。その際、公共的な空間を支える様々な制度の改善を通じてよりよい社会を築く自立した主体として生きるために必要な知識・技能、思考力・判断力・表現力及び態度を養い、(3)の学習が効果的に行われるよう課題意識の醸成に努めるようにする。

ア 政治的主体となる私たち

<題材の例>

政治参加、世論の形成、地方自治、国家主権（領土を含む）、国際貢献…

財政と税、社会保障、市場経済の機能と限界、雇用、労働問題（労働関係法制を含む）…

職業選択、金融の働き、経済のグローバル化と相互依存関係の深まり…

多様な契約、メディア、情報リテラシー、男女共同参画…

（ア～エのうち二つ、あるいは三つが複合的に関連し合う題材を取り扱うことが考えられる）

裁判制度と司法参加…

消費者の権利と責任、契約…

情報モラル…

ウ 法的主体となる私たち

イ 経済的主体となる私たち

エ 様々な情報の発信・受信主体となる私たち

※ 様々な主体となる個人を支える家族・家庭や地域等にあるコミュニティ

⇒ 世代間協力・交流、自助・共助・公助等による社会的基盤の強化

(3)持続可能な社会づくりの主体となるために

⇒ (1)で身に付けた選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理等を活用するとともに、(2)で行った課題追究的な学習で扱った現実社会の諸課題への関心を一層高め、個人を起点として、自立、協働の観点から、今まで受け継がれてきた蓄積や先人の取組、知恵などを踏まえつつ多様性を尊重し、合意形成や社会参画を視野に入れながら持続可能な地域、国家・社会、国際社会づくりに向けた役割を担う主体となることについて探究を行う。

ア 地域の創造への主体的参画

イ よりよい国家・社会の構築への主体的参画

ウ 国際社会への主体的参画

<題材の例> 公共的な場づくりや安全を目指した地域の活性化、受益と負担の均衡や世代間の調和がとれた社会保障、文化と宗教の多様性、国際平和、国際経済格差の是正と国際協力… などについて探究

家族・家庭、生涯の生活の設計や消費生活等に関する個人を起点とした自立した主体となる力を育む家庭科、横断的・総合的な学習や探究的な学習を行う総合的な探究の時間（仮称）などと連携

※ 「公共（仮称）」においては、教科目標の実現を見通した上で、キャリア教育の観点から、特別活動などと連携し、経済、法、情報発信などの主体として社会に参画する力を育む中核的機能を担うことが求められる。
※ 取り上げる事象については、生徒の考えが深まるような様々な見解を提示することなどが求められる。その際、特定の事柄を強調しすぎたり、一面的な見解を十分な配慮なく取り上げたりするなど、特定の見方や考え方に偏った取扱いにより、生徒が多面的・多角的に考察し、事実を客観的に捉え、公正に判断することを妨げるような留意すること。また、客観的かつ公正な資料に基づいて指導するよう留意すること。

新必修科目(案)

「公共(仮称)」

(1)「公共」の扉

「グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者」を育成

⇒自立した主体とは、孤立して生きるのではなく他者との協働により国家や社会など公共的な空間を作る主体であるということを学ぶとともに、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論、公共的な空間における基本的原理を理解し、(2)、(3)の学習の基盤を養う。

ア 公共的な空間を作る私たち

⇒今まで受け継がれてきた我が国の文化的蓄積を含む古今東西の先人の取組、知恵などを踏まえ、
・様々な立場や文化等を背景にして社会が成立していること
・①「自立した主体とは何か」を問い、自らの体験や悩みを振り返ることを通して自らを成長させること、
②人間は社会的な存在であることを認識し、対話を通じてお互いを理解し高め合うこと、
両者によってよりよい公共的な空間を作り出していくこと(勤労観・職業観の育成を含む)について学ぶ。

倫理的主体となる私たち

イ 公共的な空間における人間としての在り方生き方

⇒社会に参画し、他者と協働する倫理的主体として、行為の善さを個人が判断するための手掛かりとなる、
①「その行為の結果である、個人や社会全体の幸福を重視する考え方」、
②「その行為の動機となる人間的責務としての公正などを重視する考え方」、
について理解させる。その際、

- ・人が追求するものは経済的価値に限られるものではなく、多義的であること
- ・両者ともに活用し、自分も他者ともに納得できる解を見出そうと考えていくことが重要であること
- ・行為の結果について、多面的・多角的に考えていくことが重要であること
- ・行為の動機について、個々の動機に留まらず、それらを継続的に考えていくことにより、人間としての在り方生き方について考えていくことが重要であること

などを取り上げる。

ウ 公共的な空間における基本的原理

⇒社会における基本的な原理について、個人と社会との関わりにおいて考える。具体的には、個人の尊重を前提に、社会的関係の共時性と通時性に配慮しつつ、各人の意見や利害を調整することなどを通して、人間の尊厳と平等、協働の利益と社会の安定性の確保をともに図ることが、公共的な空間を形作るために必要であることについて理解させる。その際、

- ・民主主義、法の支配、自由・権利と責任・義務、相互承認…

などを取り上げる。

※ 指導のねらいを明確にした上で、囚人のジレンマ、共有地の悲劇、最後通牒ゲーム等の思考実験や、環境保護、生命倫理等について概念的に考える学習活動を取り入れること。その際、(3)「持続可能な社会づくりの主体となるために」で取り扱う課題と連動した課題を取り上げるようにする。

高等学校学習指導要領における「公共（仮称）」の構成②

※政治、経済及び法に関する制度の基本を理解し、これらの制度を通じて主体的に国家・社会の形成に参画して、諸課題を解決していくために必要な学習を行う。

「公共」（仮称）

(1)「公共」の扉

別紙

(2)自立した主体として国家・社会の形成に参画し、他者と協働するために

- ⇒小・中学校社会科で習得した知識等を基盤に、「人間と社会の在り方についての見方・考え方」を働かせながら、(1)「公共」の扉で身に付けた選択・判断するための手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理等を活用して現実社会の諸課題を自ら見出し、考察、構想する。
- ・国家・社会を構成する主体となるために、協働の必要な理由、協働を可能とする条件、協働を阻害する要因などについて考察を深める。その際、公共的な空間を支える様々な制度の改善を通じてよりよい社会を築く自立した主体として生きるために必要な知識・技能、思考力・判断力・表現力及び態度を養い、(3)の学習が効果的に行われるよう課題意識の醸成に努めるようにする。

ア 政治的主体となる私たち

⇒協働により目指すべきもの（議論により、意見や信念、利害の対立状況を調整し、合意形成することを通して、よりよい社会を築くこと）

<題材の例>

政治参加、世論の形成、地方自治、
国家主権（領土を含む）、国際貢献・・・

財政と税、社会保障、市場経済の機能と限界、
雇用、労働問題（労働関係法制を含む）・・・

職業選択、金融の働き、経済のグロー
バル化と相互依存関係の深まり・・・

多様な契約、メディア、情報リテラシー、男女共同参画・・・
（ア～エのうち二つ、あるいは三つが複合的に関連し合う題材を取り扱うことが考えられる）

裁判制度と司法参加・・・

消費者の権利や責任、契約・・・

情報モラル・・・

⇒協働により目指すべきもの（公正な手続きに則り各人の意見や利害を公平に調整し、個人や社会の紛争を調停・解決することなどを通して、秩序を形成・維持していくこと）

⇒協働により目指すべきもの（情報に関する責任や、利便性と安全性を多面的・多角的に考えていくことを通して、望ましい情報社会を築くこと）

ウ 法的主体となる私たち

エ 様々な情報の発信・受信主体となる私たち

<考えられる学習活動の例> 討論、ディベート、模擬選挙、模擬投票、模擬裁判、外部の専門家の講演、新聞を題材にした学習、体験活動、インターンシップの事前・事後の学習

※ 様々な主体となる個人を支える家族・家庭や地域等にあるコミュニティ

⇒世代間協力・交流、自助・共助・公助等による社会的基盤の強化

家族・家庭、生涯の生活の設計や消費生活等に関する個人を起点とした自立した主体となる力を育む家庭科、情報リテラシーを扱う情報科、個人の安全指導を行う保健体育科及び、横断的・総合的な学習や探究的な学習を行う総合的な探究の時間（仮称）などと連携

<留意点>(3)「持続可能な社会づくりの主体となるために」において課題を探究する学習を行うことに留意し、個別的・網羅的に題材を取り扱うことなく、主体相互の有機的な関連を図るようにすることが求められる。

高等学校学習指導要領における「公共（仮称）」の構成③

「公共」（仮称）

(1)「公共」の扉

別紙

(2)自立した主体として国家・社会の形成に参画し、他者と協働するために

別紙

(3)持続可能な社会づくりの主体となるために

⇒ (1)「公共」の扉で身に付けた選択・判断するための手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理等を活用するとともに、(2)「自立した主体として国家・社会の形成に参画し、他者と協働するために」で行った課題追究的な学習で扱った現実社会の諸課題への関心を一層高め、個人を起点として、自立、協働の観点から、今まで受け継がれてきた蓄積や先人の取組、知恵などを踏まえつつ多様性を尊重し、合意形成や社会参画を視野に入れながら持続可能な地域、国家・社会、国際社会づくりに向けた役割を担う主体となることについて、政治、経済、法などの個々の制度にとどまらず、横断して総合的に探究する。

ア 地域の創造への主体的参画

イ よりよい国家・社会の構築への主体的参画

ウ 国際社会への主体的参画

<題材の例> 公共的な場づくりや安全を目指した地域の活性化、受益と負担の均衡や世代間の調和がとれた社会保障、文化と宗教の多様性、国際平和、国際経済格差の是正と国際協力・・・などについて探究

家族・家庭、生涯の生活の設計や消費生活に関する個人を起点とした自立した主体となる力を育む家庭科、情報リテラシーを扱う情報科、個人の安全指導を行う保健体育科及び、横断的・総合的な学習や探究的な学習を行う総合的な探究の時間(仮称)などと連携

<留意点>(1)「公共」の扉、(2)「自立した主体として国家・社会の形成に参画し、他者と協働するために」の学習を踏まえて、科目のまとめとして(3)「持続可能な社会づくりの主体となるために」における課題を探究する学習が行われることに留意し、(1)、(2)においては、(3)で課題を探究する学習が効果的に行われるよう課題意識の醸成に努めることが求められる。

<「公共（仮称）」において考えられる学習活動の例> 討論、ディベート、模擬選挙、模擬投票、模擬裁判、外部の専門家の講演、新聞を題材にした学習、体験活動、インターンシップの事前・事後の学習

<「公共（仮称）」の学習において関係する専門家・機関> 選挙管理委員会、企業、経済団体、起業家、弁護士、報道機関、消費者センター、留学生、NPO、NGO …

※ 「公共（仮称）」においては、教科目標の実現を見通した上で、キャリア教育の観点から、特別活動などと連携し、経済、法、情報発信などの主体として社会に参画する力を育む中核的機能を担うことが求められる。

項目構成

「公共」（仮称）

(1) 「公共」の扉

(2) 自立した主体として国家・社会の形成に参画し、他者と協働するために

(3) 持続可能な社会づくりの主体となるために

重視する思考力、判断力、表現力等

- 現代社会の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を理解し、事実を基に多面的・多角的に考察する力
- 考察したことを、資料を踏まえて説明したり論述したりする力

- 選択・判断するための手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、政治、経済、法などに関する現代の社会的現象や、それらが複合的に関連し合っている現実社会の諸課題について、解決に向けて協働的に考察する力
- 合意形成や社会参画を視野に入れながら議論する力

- 選択・判断するための手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、個人を起点として、自立、協働の観点から、持続可能な地域、国家・社会、国際社会づくりに向けて現実社会の諸課題の解決に向けて構想する力
- 合意形成や社会参画を視野に入れながら、構想したことの妥当性や効果、実現可能性などを指標にして論拠を基に議論する力

「人間と社会の在り方についての見方・考え方」を用いた授業展開

問いの例と授業展開のイメージ

(1) 人間社会と自然環境との関わりについて判断する際、どのような手掛かりがあるだろうか

- ①「その行為の結果である、個人や社会全体の幸福を重視する考え方」に立った場合
→(説明の例)林道建設による観光客の増加や山林に親しみを感じる人の増加と、林道建設により入会地が消滅することによる伝統文化の破壊などのメリットとデメリットを比較衡量し、社会として最大限の便益となるような選択を行う。
- ②「その行為の動機となる人間的責務としての公正などを重視する考え方」に立った場合
→(説明の例)入会地としての森林活用とそれに基づいた生活様式には何があっても損なうことのできない価値があり、これを維持していくことは義務であると考え、林道建設を判断する。
- (問いに対する答えの例)
- ・①、②とも現代社会の諸課題を考える際に手掛かりとなる重要な考え方である。その際、人が追求するものは経済的価値に限られるものではなく、多義的であること、①、②の両者ともに活用し、自分も他者ともに納得できる解を見出そうとしていくこと、などについて継続的に考えていくことが重要である。

(2) 政策についての選択・判断や立案・提案を通して、政治参加の意義を考えよう

- ・中学校の学習を振り返り、議会制民主主義や選挙の意義などを考察する。また、実際の選挙をイメージして何を基準に投票するとよいか、協働的に考察し、模擬選挙を実施する。その際、選挙管理委員会などの専門機関と連携し専門的助言を得る。
- ・選挙公報などを読み取り、政策を比較した表を作成する。(1)で身に付けた①、②の考え方などを活用して、自分の意見に近い具体的な政策を選択し、投票する際の判断の手掛かりを身に付けるとともに、他者と協働して立案・提案することの大切さに気付く。
- ・模擬選挙を振り返り、有権者になるということ、平和で民主的な国家及び社会の形成者となるということなどについて自覚を深める。

(3) 持続可能な社会を実現するために、私たちは何をすべきだろうか

- ・これまでの学習の成果を総合的に活用し、文化と宗教の多様性に関する課題を自ら見出す。
- ・グローバル化、情報化が進展する今日の国際社会は密接な相互関係の上に成り立っていること、自分たちの身近にも外国の人々や様々な文化や宗教との触れ合いがあることなど、課題に関わる事象について多面的・多角的に考察するとともに、よりよい国家・社会の在り方や、将来にわたって共に安心できる暮らしを実現することを視野に入れて主体的に構想し、議論したり論述したりする。
- ・個人の尊重を前提に、異なる文化や習慣、価値観を持った人々が協働して、よりよい公共的な空間を作っていくことの大切さに気付き、参画していこうとする態度を養う。

<補足；「学習の系統性、段階性」>

- ・(1)の学習で身に付けた選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を、後の(2)、(3)の学習や、選択科目「倫理（仮称）」、「政治・経済（仮称）」において実践的に活用する。
- ・(1)、(2)の学習を踏まえて、科目のまとめとして(3)における課題を探究する学習が行われることに留意し、(1)、(2)においては、(3)で課題を探究する学習が効果的に行われるよう課題意識の醸成に努めることが求められる。

新必修科目「公共(仮称)」の構成

- 現代社会の課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論を、古今東西の知的蓄積を踏まえて習得する。
- 選択・判断するための手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、現代の社会的事象や現実社会の諸課題について、事実を基に協働的に考察し、合意形成や社会参画を視野に入れながら解決に向けて構想したことの妥当性や効果、実現可能性などを指標にして論拠を基に議論する力を養う。
- 持続可能な社会づくりの主体となるために、様々な課題の発見・解決に向けた探究を行い、「グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者」として必要な資質・能力を育成する。

新選択科目 「倫理(仮称)」

新選択科目 「政治・経済(仮称)」

公共的な事柄に自ら参画しようとする意欲や態度を養い、現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚を一層深める学習を充実

原典も活用し様々な先哲の考え方を手掛かりとし、哲学に関わる対話的手法も活用して、自立して思索を行い、他者と共に生きる主体を育む「倫理」

※思想史的知識の習得に終始しないようにする。

政治と経済の特質を総合的・一体的に捉えるとともにグローバルな視点をより重視して、国家及び社会の形成に、より積極的な役割を果たす主体を育む「政治・経済」

※制度・仕組みの知識の習得に終始しないようにする。

※ 現行の選択必修科目「現代社会」同様に1科目でもって公民科の教科目標を達成することのできる新必修科目「公共(仮称)」を設置することとなっている。この科目は、「現代社会」における三つの大項目相互の関係や学習内容において共通する点が多く、その発展と捉えることもできることから、「現代社会」については科目を設置しないこととする。

＜科目構成の考え方＞

- ・新必修修科目「公共（仮称）」で習得した個人が判断するための手掛かりとなる考え方を基盤とし、古今東西の幅広い知的蓄積を通してより深く思索するための概念や理論を理解し、それらを活用して現代の倫理的諸課題を探究するとともに、人間としての在り方生き方についてより深く自覚し、人格の完成に向けて自己の生き方の確立を図り、他者と共に生きる主体を育む「倫理」に発展させる。そのために、先哲の思想を個別に取り上げ学ぶのではなく、倫理的諸価値について時代を超えた様々な先哲による考え方を手掛かりとして「考える倫理」を推進する。

現行公民科目

倫理

(1)現代に生きる
自己の課題

(2)人間としての
在り方生き方

- ア 人間としての自覚
- イ 国際社会に生きる
日本人としての自覚

(3)現代と倫理

- ア 現代に生きる
人間としての倫理
- イ 現代の諸課題と倫理

一部移行

拡充

資質・能力

- 現代の諸課題を捉え、より深く思索するために必要な概念や理論の理解、及び諸資料から、人間としての在り方生き方に関わる情報を効果的に収集する・読み取る・まとめる技能

新必修修科目で育まれた資質・能力を活用し、思索を深める科目

- 課題を解決するために概念や理論を活用し、論理的に思考し、思索を深め、説明したり対話したりする力

- 現代社会に生きる人間としての在り方生き方についてのより深い自覚 など

「人間としての在り方生き方についての見方・考え方を働かせて、右の資質・能力を育む」

(1)「公共」の扉

(2) 自立した主体として国家・社会の形成に参画し、他者と協働するために

(3) 持続可能な社会づくりの主体となるために

新必修修科目
「公共（仮称）」

新選択科目「倫理（仮称）」

(1) 自己の課題と人間としての在り方生き方

⇒自己の生き方を見つめ直し、自らの悩みや体験を振り返り、「公共（仮称）」で取り扱った社会との関わりに加えて、自己の課題を他者、集団、生命や自然などとの関わりも視点として捉え、様々な先哲の考え方を手掛かりとしてより広い視野から多面的・多角的に人間としての在り方生き方について思索し、これを踏まえて国際社会に生きる日本人としての在り方生き方についても思索を深める。

（課題例）人間としての在り方生き方の自覚（人間観（愛・徳）・倫理観（善・共感・義務・幸福・正義）・世界観（真理・存在）・宗教観（聖）・芸術観（美））、国際社会に生きる日本人としての自覚（人間観・倫理観・自然観・宗教観・芸術観）

(2) 現代の諸課題と倫理

探究

⇒現代に生きる人間の倫理的課題について思索を深め、論理的思考力を身に付け、自己の生き方の確立を図り、他者と共に生きる主体を育むために探究する。

（課題例）自然・科学に関わる諸課題と倫理（技術の倫理・医療の倫理・動物の倫理など）、社会・文化に関わる諸課題と倫理（福祉の倫理・宗教の倫理・平和の倫理など）

【学習活動の例】

- ・我が国を含む古今東西の先哲たちの基本的な考え方を手掛かりとするため、先哲の原典の口語訳を読む

- ・哲学に関わる対話的手法等も活用

＜科目構成の考え方＞

- ・小・中学校社会科及び新必修科目で身に付けた「現代社会の見方・考え方」や「人間と社会の在り方についての見方・考え方」を基盤に、新必修科目で習得した選択・判断するための手掛かりとなる概念等を活用し、政治と経済の特質を総合的・一体的に捉えるとともに、グローバルな視点をより重視して、現代日本の政治や経済の諸課題や国際社会における日本の役割など、正解が一つに定まらない現実社会の諸課題を協働して探究し、国家及び社会の形成に、より積極的な役割を果たす主体を育む「政治・経済」に発展させる。

新必修科目
「公共（仮称）」

現行公民科目

政治・経済

(1)現代の政治

- ア 民主政治の基本原理と日本国憲法
- イ 現代の国際政治

(2)現代の経済

- ア 現代経済の仕組みと特質
- イ 国民経済と国際経済

(3)現代社会の諸課題

- ア 現代日本の政治や経済の諸課題
- イ 国際社会の政治や経済の諸課題

資質・能力

○正解が一つに定まらない、現実社会の複雑な諸課題の解決に向けて探究するために必要な概念や理論の理解、及び諸資料から、現実社会の諸課題の解決に必要な情報を効果的に収集する・読み取る・まとめる技能

新必修科目で育まれた資質・能力を活用し、社会形成に向かう科目

○社会に見られる複雑な課題を把握し、説明するとともに、身に付けた判断基準を根拠に解決の在り方を構想し、構想したことの妥当性や効果、実現可能性などを踏まえて議論し、合意形成や社会形成に向かう力

○我が国及び国際社会において、国家及び社会の形成に、より積極的な役割を果たそうとする自覚 など

「社会の在り方についての見方・考え方」を働かせて、右の資質・能力を育む

(1)「公共」の扉

(2) 自立した主体として国家・社会の形成に参画し、他者と協働するために

(3) 持続可能な社会づくりの主体となるために

新選択科目「政治・経済（仮称）」

(1) 現代の政治と経済の諸課題

⇒「公共（仮称）」で取り扱った法や民主政治、現代経済について、それらを構成する様々な専門領域を深く追究し、複雑な現代政治・経済の特質を総合的・一体的に捉え説明するとともに、現代日本の政治や経済の諸課題について、その解決に向けて広く深く探究する。

（課題例）望ましい政治の仕組み及び主権者としての政治参加の在り方、経済活動の在り方と福祉の向上の関連、少子高齢社会と社会保障制度…

探究

(2) グローバル化する国際社会の諸課題

⇒複雑な国際政治・経済の特質を総合的・一体的に捉え説明するとともに、「公共（仮称）」で取り扱った我が国と国際社会への主体的参画の在り方を踏まえ、グローバル化する国際社会の諸課題について、その解決に向けて広く深く探究する。

（課題例）国際平和と人類の福祉に寄与する日本の役割、国際経済格差の是正と国際協力、地球環境と資源・エネルギー問題…

探究

【学習活動の例】

- ・ 複雑な現実社会の諸課題を取り扱い、合意形成や社会形成を視野に入れながら協働して課題の解決に向けて探究する
- ・ 討論、ディベートなどの手法等も活用